

オンラインディベートによるライティング能力と汎 用的技能の向上

岡田, 美鈴
宇部工業高等専門学校

<https://doi.org/10.15017/6770265>

出版情報：基幹教育紀要. 9, pp.169-182, 2023-02-24. 九州大学基幹教育院
バージョン：

権利関係：© 2022 Faculty of Arts and Science, Kyushu University. All rights reserved. The publisher holds the copyright on all materials published in its journals except special issues, whether in print or electronic form, both as a compilation and as individual articles. All journal content is subject to "fair use" provisions of Japanese or applicable international copyright laws.



オンラインディベートによるライティング能力と汎用的技能の向上

岡田 美鈴^{1*}

¹ 宇部工業高等専門学校, 〒755-8555 山口県宇部市常盤台 2 丁目 14 番 1 号

Improving English Writing Ability and Generic Skills through the Online Debate Activities.

Misuzu OKADA^{1*}

¹ General Education, National Institute of Technology, Ube College, 2-14-1, Tokiwadai, Ube, Yamaguchi 755-8555, Japan

*E-mail: okadam@ube-k.ac.jp

Received Oct. 31, 2022; Revised Nov. 28, 2022; Accepted Nov. 29, 2022

This paper aims to report the online debate activities and the improvement of students' English writing ability and generic skills through these activities. Participants are 222 students in 3rd grade who belong to departments of mechanical engineering, electrical engineering, intelligent system engineering, chemical and biological engineering, and business administration of National Institute of Technology, Ube College. They learned and participated in debates from home through Teams for lectures in Microsoft Office 365. They learned what is and how to debate in the 1st and 2nd online lectures. From the 3rd to 8th lectures, they held meetings by themselves to make their argument, Q&A, and rebuttals using a lot of worksheets attached with many examples. They uploaded them to another Team for online debate every time. This is the method of the online debate using Microsoft Teams. Finally, they submitted the reports that reviewed their debate competition as self-judgments. From these activities, they could improve their English writing ability by using many worksheets and generic skills by holding meetings with visualizing their argument from worksheets.

1. はじめに

新型コロナウイルスが世界的に流行し、ここ数年、日本においてこれまで数少なかったオンラインやオンデマンドでの授業が初等教育から高等教育まで幅広く展開されてきた。教員も試行錯誤しながらの授業展開ではあるが、対面授業の時と同じように、児童、生徒、また学生たちの学習能力や汎用的技能、いわゆるジェネリックスキルの育成について、教育の質を担保しなければならない。一見閉じられた世界のように思われる昨今、それでもグローバル化の波は止まらない。中でも欠かせない言語である英語は“World Englishes”とも呼ばれ、現在では、英語母語話者よりも非英語母語話者の数が圧倒的に多くなってきているのである（白畑, 2021）。社会へ出て行く学生にとって、英語によるコミュニケーション能力はますます重要な要素のひとつとなっている。

岡田（2019）でも述べているが、ここで改めてジェネリックスキルについて少し説明をしたいと思う。日本語では汎用的技能とも呼ばれており、文部科学省による 2008 年の「学士課程教育の構

築に向けて（答申）」によると、「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能」であり、（１）コミュニケーション・スキル、（２）数量的スキル、（３）情報リテラシー、（４）論理的思考力、（５）問題解決力」のことであるとされている。この「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」(p. 12) に述べられていることは、高等専門学校でも同様にモデルコアカリキュラムの中で図１のように規定されている。

技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力		技術者が備えるべき分野別の専門的能力	
I 数学		V 分野別の専門工学	
II 自然科学		V-A 機械系分野	
II-A 物理		V-B 材料系分野	
II-B 物理実験		V-C 電気・電子系分野	
II-C 化学		V-D 情報系分野	
II-D 化学実験		V-E 化学・生物系分野	
II-E ライフサイエンス・アースサイエンス		V-F 建設系分野	
III 人文・社会科学		V-G 建築系分野	
III-A 国語		V-H 商船系分野(航海)	
III-B 英語		V-I 商船系分野(機関)	
III-C 社会		VI 分野別の工学実験・実習能力	
IV 工学基礎		VI-A 機械系分野	
IV-A 工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)		VI-B 材料系分野	
IV-B 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史		VI-C 電気・電子系分野	
IV-C 情報リテラシー		VI-D 情報系分野	
IV-D グローバリゼーション・異文化多文化理解		VI-E 化学・生物系分野	
		VI-F 建設系分野	
		VI-G 建築系分野	
		VI-H 商船系分野(航海)	
		VI-I 商船系分野(機関)	
技術者が備えるべき分野横断的能力			
VII 汎用的技能		VIII 態度・志向性(人間力)	
VII-A コミュニケーションスキル		VIII-A 主体性	
VII-B 合意形成		VIII-B 自己管理能力	
VII-C 情報収集・活用・発信力		VIII-C 責任感	
VII-D 課題発見		VIII-D チームワーク力	
VII-E 論理的思考力		VIII-E リーダーシップ	
		VIII-F 倫理観(独創性の尊重、公共心)	
		VIII-G 未来志向性・キャリアデザイン力	
		VIII-H 企業活動理解	
		VIII-I 学習と企業活動の関連	
		IX 総合的な学習経験と創造的思考力	
		IX-A 創成能力	
		IX-B エンジニアリングデザイン能力	

図１ 高専の技術者教育に関する備えるべき能力（国立高等専門学校機構, 2017）

高専生や大学生は実に多くの能力を身につけて社会へ出て行かなければならない。授業内で英語の知識だけではなく、特に分野横断的能力に含まれる技能を身につけさせるためには、対面授業であってもオンライン授業であっても、様々なタスクやアクティビティを展開していく必要がある。そこで、自宅からでも個人活動とグループ活動ができるよう、Microsoft Teams の会議機能やチャットを使った仕掛けとプリント教材を準備し、汎用的技能を含む分野横断的能力を駆使しながら英語能力、主にライティング能力の向上を目指すオンラインディベート活動を実施することとした。議題として SDGs（Sustainable Development Goals）に関する社会問題を取り上げ、日本語だけでなく英語で情報を検索するなど対象言語を使いながら、世界や日本、自分たちの暮らす地域に関する問題に意識を向けさせ、情報収集や課題発見力などを養えるよう授業を設計した。

本稿では、具体的な授業設計の説明と学生の活動、授業後のアンケートといった一連の流れと得られた成果物について詳細を報告していく。

2. オンラインディベート活動

2.1. 活動の目的

本研究授業の目的は、①英語による基本的なライティング能力の育成、②議論に必要な英語表現の育成、③思考力の育成、④主体的に考える力の育成、⑤チームワーク力の育成、⑥情報検索能力の育成、⑦コミュニケーション能力の育成、の7点である。どの能力もこれからのグローバル社会を生き抜くためには必要なものであり、それはオンライン授業によって一人で自宅学習している環境であっても身につけていかなければならないものである。本研究授業では、対面授業と変わらずにオンライン授業でこれらの能力に対し刺激を与えることのできる活動として教育ディベートは最適であると考え、多くの仕掛けのもと実施した。

2.2. 活動の方法

対象となった授業は「英語演習Ⅲ」と呼ばれるもので、主にプレゼンテーションやディベートなどアウトプットを取り入れた活動を目的とするものである。受講する学生は本校の3年生で、機械工学科、電気工学科、制御情報工学科、物質工学科、経営情報学科を含む全5学科222人である。

議論のテーマは、学生がSDGsの観点から様々な意見を出し、以下のように設定した。エネルギーや環境、雇用の問題を考える①コンビニエンスストアの24時間営業を廃止すべきである。教育やジェンダーなど幅広い問題を考える②英語の授業は必修ではなく選択制にすべきである。貧困や雇用、教育について考える③高校生(16歳以上)のアルバイトは容認すべきである。飢餓や環境の問題について考える④日本は食糧廃棄の対策をもっと取るべきである。気候変動や陸地に関する環境問題を考える⑤人間による開発のための森林伐採は禁止されるべきである。雇用や環境について考える⑥大量生産のための工場稼働を減らすため、途上国などによるハンドメイド製品を支援すべきである、の6つである。

授業はMicrosoft Teamsに作成した各クラス授業用Teamsにおいて実施され、学生は各自時間割通りに計8回、自宅から参加した。まず、ディベートとはどういうものなのか、どういう方法でオンラインディベートをやっていくのかについてオンラインで講義を2回にわたり実施した。その後グループで集まらせて、割り当てられたテーマ、3~4人で構成されたチームメンバー、対戦相手等を確認し、グループ活動を円滑に進めるための役割分担【リーダー、タイムキーパー、書記、情報管理】の決定などを行った。5学科同様の授業をしているため、対戦相手は他学科のチームとした。こうしたグループごとの会議はクラスTeamsに作られている鍵チャンネル内で行う。3回目から7回目は、毎回各グループで会議を開き、英語で立論や質疑応答、反駁を授業時間内と、割り当てられた授業外学習時間で組み立てた。オンラインディベート活動専用のTeams、さらにその中に対戦相手同士の鍵チャンネルを作成しておき、学生たちは組み立てた議論をそこに投稿した。対戦相手のチ

ームは投稿を確認してチーム会議に持ち帰り、話し合いながら質疑応答や反駁を考え、相手にメッセージを送りあうことでディベートを実施した。本来は、口頭でお互いに立論や質疑応答、反駁をしながら、ジャッジが判定する方法が基本ではあるが、各授業曜日が違うこと、対戦相手のグループ以外にジャッジのグループをチャンネル内で同席させることが困難であったことから、8回目の授業において各自議論の振り返りをする「セルフジャッジ」の形を取った。

2.3. 授業実践と学生の活動

【1・2回目】

3MESCB 英語演習Ⅲ 授業板書ノート

オンラインディベート

第1回講習

【今日の学習目標】

①ディベートの目的と構成
②情報検索の仕方
③翻訳機能の使い方

【①ディベートの目的と構成】

目的:

- ① (批判的思考) の育成
- ② (論理的思考) の育成
- ③ 社会問題について (主体的に考える) 力の育成
- ④ (チームワーク) の育成

a) 物事について (証拠を示しながら) 肯定・否定双方から (分析する) 力を養う

b) その上で (自分の主張を論理的に構成する) 力を養う

c) (相手の主張を理解) し、分析する力を養う

d) 相手を (説得する議論能力) を養う

構成: 本来のディベート

肯定側

↓

ジャッジ

① (肯定側) ディベーターチーム

② (否定側) ディベーターチーム

③ (ジャッジ) (聴衆)

否定側

↓

ジャッジ

お互いの意見を交わし合い、最終的に (合意形成) するのが (ディスカッション)。一方、お互いの意見を交わし合い、いかに自分たちの主張が (論理的に説得力) があるかを競うのが (ディベート)。

図2 学生の書いた授業板書ノート①の一部

確認や明確化を求める表現例:

How many reasons did you present?
「あなたはいくつの理由を説明しましたか?」

Did you say "right"?
「あなたは「・・・」といましたよね?」

You didn't read any evidence for the (first, second) argument, correct?
「あなたは(1番目、2番目の)議論の中で何らかの証拠を読んでいませんよね、あっていますか?」

説明を求める表現例:

You used the word " " what does it mean?
「あなたは「 」という語を使っていますが、どういう意味ですか?」

Could you explain " " more in detail?
「「・・・」についてもっと詳細に説明していただけますか?」

Could you give us an example about " "?
「「・・・」について私たちに例を示していただけませんか?」

「(応答)」を組み立てる際のポイント:

○質問された側は、自分たちの主張を納得してもらうために、(自信をもって) 回答すること。

○また、質問に対する回答に (必要な調べ物) をしっかりとし、(真摯に) 回答すること。

【①議論の組み立て方 3】

「(反駁)」を組み立てる際のポイント:

○最後に議論の総括を行う反駁の中に、これまでの議論で触れられていない (新たな議論を展開) はならない。

○一番大切なことは、質疑応答によって弱められた自分たちの (自分たちの議論を立て直すこと) である。

反駁作成の流れ:

反駁は、質疑応答によってどのような議論展開になるか、最初は予想できないので、質疑応答の後にメンバーで作成する。

<否定側>

(通常、反駁は否定側から行われる)

① (肯定側立論) で展開した議論を中心に (反論する)。特に重要な議論を取り上げ、なぜ自分たちのチームが (より説得力がある) を (比較) しながら説明する。

図3 学生の書いた授業板書ノート②の一部

学生は自宅からオンラインで筆者の講義を受けた。説明を聞き、授業板書ノートの () に適する解答を入れながら以下の点について学ぶ構成である。1回目は①ディベートの目的と構成、②情報検索の仕方、③翻訳機能の使い方の3点。情報検索については、テーマについて肯定・否定どちらの立場になってもいいようにあらゆる情報に触れられる調べ方について話した。情報を絞り込むためのAND検索、同時に複数のキーワードを検索するOR検索、ある情報を除外するためのNOT検索の3つである。翻訳機能については、使わせないことは難しいので、使う際の注意点について例を示して説明した。2回目は、3回目から始まるオンラインディベートの方法論として、学生たちは議論の組み立て方を具体的に学んだ。筆者は立論や質疑応答、反駁の作り方、英語での表現例などについて詳しく解説をした。2回目の終わりには、事前に学生と話し合っただけのテーマとチーム分けを発表し、各自クラスチーム内の鍵チャンネルに移動した後、メンバーと顔合わせをしたり、

役割分担を決めるなどした。その後、オンラインディベート専用 Team にある鍵チャンネルで対戦相手にチャットで自己紹介をした。

【3 回目】

ここからはクラス Teams 内でのグループ活動とオンラインディベート専用の Team 内にある各自鍵チャンネル内への投稿を続けながら、オンラインディベートを実施していく。毎回各自のファイルとグループで考えを集約したファイルを提出させていくことで議論を可視化し、同時に学生の成果物とした。

3 回目のポイントは以下の 3 点である。まず、①肯定か否定かの立場を明らかにする前に、与えられたテーマについて両方の面からメンバーでブレインストーミングをさせた。どちらの立場についても考えを巡らせることは、自分の意見を主張するだけではなく、他者の考えも理解しながら相手を説得したり、時にメンバーと合意形成したりするために重要な活動である。次に、②立場を発表し、テーマに対する自分たちの考えについて再び話し合いを行った。時に、自分たちの思いとは反対の立場になることもあるが、社会に出たときそういった問題にどう取り組むのかについてトレーニングできる良い機会とし、様々な観点から情報を検索するよう学生をファシリテートした。最後に、③この 3 回目の授業の成果物として各自のブレインストーミングファイルとグループの意見を一覧にしたファイル、各自の議論の大まかな流れを考えるアウトラインファイル、グループでまとめたアウトラインまとめファイルをそれぞれ提出させた。下の図は学生の提出した手書きのファイルである。個人名やアカウント名は消してある。

3MESCIB 英語演習Ⅲ ワークシート①-2
班 (B-55) 書記名前 () メンバー名前 ()
オンラインディベート ブレインストーミングまとめシート

メンバーで、各自のどの意見を取り入れて議論を組み立てていくのか話し合います。取り入れることになった意見を、書記はこの表にまとめていってください。終わったらアップロードして、全員でファイルを共有します。

Brainstorming Sheet (Quick Thinking)	
Your Theme: コンビニ等に代表される小売店の 24 時間営業を廃止すべきである。是(肯定)か非(否定)か。(SPGs: 11)	
ADVANTAGES (良い点)	DISADVANTAGE (悪い点)
労働者の負担や店側にかかる費用が減り、お客がたむろしなくなりやすくなるため、危ない。	逃げ込める場所がなくなり、夜勤がでなくなりやすくなるため、不便である。

図 4 学生の提出したブレインストーミングファイルの写真

3MESCIB 英語演習Ⅲ ワークシート②
班 (B-55) 書記名前 () メンバー名前 ()
オンラインディベート アウトラインまとめシート

メンバーで、各自のどの意見を取り入れて議論を組み立てていくのか話し合います。取り入れることになった意見を、書記はこの表にまとめていってください。終わったらアップロードして、全員でファイルを共有します。

Outline for the Negative Constructing Speech	
Introduction (もっとも言いたいこと、テーマについて肯定側なのか否定側なのかを明らかにする文を書く) 安全性、雇用の維持、利便性の理由から、24 時間営業を廃止すべきではない。	
Plan of Action (どのような議論展開にしていけるのか、大まかに挙げていく): (When, Who, Where, What, How, Why など) (一議論の流れを示すキーワード) (リストは 4, 5 と何段階あってもよい) 1. 肯定側、否定側の意見を発表 2. 互いの証拠となるケースを発表し、お互い否定しあう 3. 質問 4. 質問に対して答える 5. 肯定側と否定側の意見を比較する	
Disadvantage 1 (悪い点: 否定側がこちらを使う。Disadvantage はいくつあってもよい) * ここにはテーマについて説得力のある証拠を具体的に挙げていく。また、Advantage (良い点) の弱さも挙げながら論破できる証拠を示していくことも効果的 安全性	
Point A: 24 時間営業をやめると、逃げ込む場所がなくなる。	
Point B: 例えば、「ストーカーから逃げられる人」と、女性が「コンビニに逃げ込む事例」が、年間 7000 件近くある。	
Point C: コンビニは、地域の防犯をすることのできる、避難場所として活用できる。	
Disadvantage 2	

図 5 学生の提出したアウトラインファイルの写真 (右図)

【4 回目】

3MESC B 英語演習Ⅲ ワークシート③
学科 (S) 番号 (1) 名前 ()

オンラインディベート 立論ワークシート

前回のグループワークで議論をどのようにすすめるか、アウトラインを決めましたね。今日は相手チームに自分たちの立論を発表する回です。動画の指示に従って、順序良く今日の活動を行ってください。発表は全員がします。ですので、アウトラインのどの部分を誰が発表するのかを決めて、自分の発表部分を下の表に書き込んでください。左側には日本語で、右側には英語で書き込んでください。英語を作る際、1 回目の授業で伝えたように、Google 翻訳に頼りすぎるのは禁止です。下の表現集を必ず参考にしてください。

Affirmative Constructing Speech (肯定側立論)	
Your Theme: deforestation Should be by human hand, yes or no.	
日本語	English
私たちは S26 です。 私たちは人の手によって森林伐採は行われるべきかについてに話します。 私たちはこの点について、間伐は環境にやさしいので賛成です。 間伐とは森林の密度を調整するために森林の一部を伐採することです。 間伐は森林伐採の一種です。 間伐には二つのメリットがあります。	Hello, We are S26. We talk about "deforestation Should be by human hand". We agree with this point, because thinning is environmentally friendly. Thinning is the cutting of parts of a forest to control its density. Thinning is a type of deforestation. Thinning has two advantages.

＜表現文例集＞

この回からオンラインディベートが始まる。この授業は、授業とは別に 30 時間の事前事後学習がついているため、学生にはメンバー全員が立論、質疑応答、反駁を作り投稿するよう指示した。4 回目は立論である。1 回目と 2 回目に学習した立論の作り方と 3 回目の話し合いの内容を参考に、まずは時間を制限して立論ワークシートを各自作成

図 6 表現文例集を使いながら作成したある学生の立論ワークシート

した。呼びかけや時間管理は各班のリーダーやタイムキーパーが行う。筆者は各チャネルをモニターしながら、会議やチャットの様子、ファイルの作成状況を確認した。ワークシートは日本語と英語でそれぞれ記入する欄を作り、シートの下には表現文例集を載せ、いずれかを使って英文を作るよう指示した。また、最初のほうにトピックセンテンスを入れてもっとも言いたいことを強調し、相手が分かりやすくなるよう指導した。各自のワークシートが完成したら、それらを持ち寄り自分たちの立論が整然と並ぶよう調整していく。一連の流れが出来上がった立論を、各自順番通りにオンラインディベート専用 Team の自分たちの鍵チャンネルに投稿する。時間割の関係上、肯定側が先に投稿することもあれば、否定側が先のこともあった。

【5 回目】

この回で学生は、相手が投稿した立論をグループに持ち帰り、「相手側立論内容まとめシート」にまとめてからよく読み、どの部分が議論の弱いところで、どのように質問を投げかけるかについて話し合った。相手側の各立論につき 1 人少なくとも 1 つ以上は質問をするよう指示した。質問の仕方は 2 回目の講義の際に、「確認や明確化を求めたり、説明を求めるような質問をすること」とし、質問ワークシートの表現文例集に英語の例を載せておいた。学生はそれに従って各自質問項目をワークシートに作成し、オンラインディベート Team 内で相手にメンションを付けて送った。

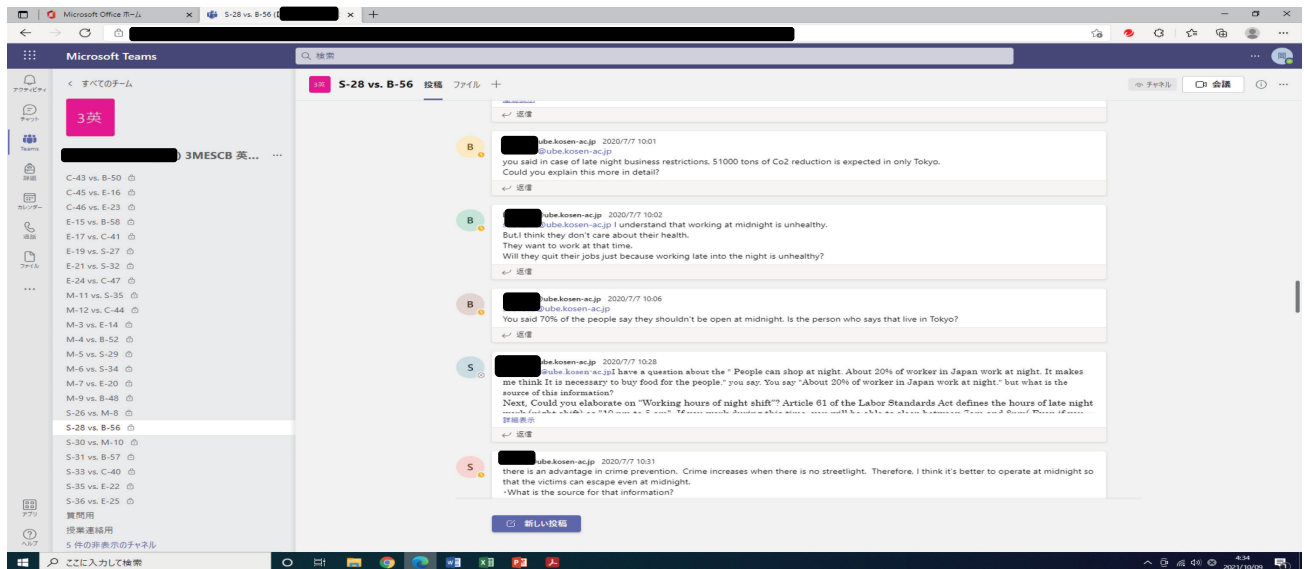


図7 オンラインディベート Team 上の質疑（アカウント名などは黒消ししてある）

【6回目】

班 (s32) 書記名前 () 3MESCB 英語演習Ⅲ ワークシート⑤
メンバー名前 ()

オンラインディベート 相手側質疑内容まとめ

グループで解釈した相手からの質疑内容について、箇条書き（日本語）でまとめてみましょう。また、どのような応答をするといいか話し合っておきましょう。

Affirmative/ Negative Cross- Examination	
① 相手からの質疑	あなたは英語が必要ないというつもりですか？それでは、現時点で世界中で英語が一般的であることについてどう思いますか？そして、将来的に英語が主要言語になったとき学ぶべきだと思いませんか？
応答	現在もっとも使われている言語は英語だと思われるが、今後はどうなるかわからないためほかの言語を学ぶ意味はあると思う。
② 相手からの質疑	「それは、ビジネスを行うに良い環境だ」とあなたは言いましたね。米国と中国の間の貿易摩擦が継続するとしたら、それは変わりますか？
応答	米国と中国の間の貿易摩擦はもう 3 年以上に及ぶが、これからも中国での経済成長が留まることはないと思う。だから、ビジネス環境としては少し影響が出るかもしれないが、そこまで変わることはないと思う。
③ 相手からの質疑	「英語だけが重要な言語ではないように思える」と言いましたよね。「重要な言語」について具体的に教えてください。
応答	ここでの重要な言語とは、コミュニケーションや異文化理解をするうえで重要な言語のことです。仕事では英語を使うことが多いと思いますが、日常生活ではその地域の言語が使われます。だから、英語以外の言語も重要な言語であると考えることができます。
④ 相手からの質疑	「英語と中国語の選択制にすべきだと思う」と言いましたか？中国語を選ぶと、英語がおろそかになってしまいます。 どうすればいいのでしょうか？
応答	中国語が英語より必要であるから選択し学ぶのです。英語が必要であればその際に学べばおろそかでは無くなります。

図8 相手の質疑内容をグループでまとめたシート（左）

学科 (s) 番号 (27) 名前 ()

オンラインディベート 応答ワークシート

前回のグループワークで相手側の立論に質問をしましたね。もちろん、あなたの方側へも質問が届いているはずです。今日は相手側からきた質問に回答する回です。グループメンバーで相手側の質問と具体的な回答内容について話し合い、だれがだれの質問に対して回答をするのか決めましたね。それでは各自、回答する文を作っていきます。作成する際はこれまで立論で作った議論からそれとなく、丁寧に詳しく説明する回答を作ってください。補強するための証拠を示すのは構いません。表の左側には日本語で、右側には英語で書き込んでください。英語を作る際、1 回目の授業で伝えたとように、Google 翻訳に頼りすぎるのは禁止です。下の表現集を必ず参考にしてください。

Your Answer to Cross-Examination (否定側からの質疑への応答)	
Your Theme: English classes should be optional not mandatory for students.	
日本語	English
ここでの「重要な言語」は、コミュニケーションと異文化理解のための重要な言語です。職場では英語を使っていると思いますが、日常生活では現地語を使っていると思います。したがって、私の観点からは、英語以外の言語も英語と同じくらい重要であると考えられます。	"Important language" here is an important language for communication and intercultural understanding. I think I use English at work, but I think I use the local language in everyday life. So from my perspective, Languages other than English can be considered as important as English.

<表現文例集>

図9 各自で作成した応答シート（上）

この回では、グループで質問内容を精査し、応答の流れを組み立て、自分がもらった質問部分に対する英語での応答を作成することが目標である。応答する際は、自信をもって回答し、必要であればさらなる調べ物をして、相手に対し真摯に回答するよう指導した。

【7 回目】

3MESCIB 英語演習Ⅲ ワークシート⑥
班 (M-10) 書記名前 () メンバー名前 ()

オンラインディベート 肯定側反駁アウトラインシート

最初の立論と前回までに行った質疑応答を見直して、最後の反駁をメンバー全員で考えてみましょう。ここで新しい証拠や議論を展開しないでください。あくまでもこれまでの自分たちの主張から、相手の議論をどう論破できるのかを考えてみてください。リーダーは全員の意見を聞いてください。その内容を書記はこの表に日本語でまとめていってください。終わったらアップして、全員でファイルを共有します。

Affirmative Rebuttal Speech	
Your Theme: Items made by hand, represented by mother house in Japan, are better than items made by machine.	
Negative Constructive (否定側の立論と応答)	Affirmative Rebuttal and Argument (肯定側の反論と主張)
(例) ●排気ガス〇〇%を出さないための他の方法は〇〇がある。水素を作るのはコストが〇〇かかるため、実用的ではない。 ・手作りは値段が高くなるから、あまり需要がない。 ・手作りは機械よりも作業効率が悪く大量生産が難しい。 ・手作りは品質に対する価格が比例していない。 ・利益が出ない。 ・毎回価格以上とは限らない。 ・個体差はデメリットになる。 ・「進化」は手作りだけでなく機械も「進化」する。 →手作りも機械もあまり変わらないのでは？	(例) ●水素カーは排気ガス〇〇%を出さない。ほかの方法だと整備に〇〇円かかっても〇〇%しか削減できない。水素カーは現実的な削減方法である。 ・手作りはあまり需要がない→そうかもしれない ・大量生産が難しい→そうかもしれない ・品質と価格が比例しない→顧客がどう思うか ・利益が出ない→利益がすべてではないと思う ・個体差はデメリット購入者が許容する範囲なら問題ない ・「進化」→似たようなもの

3MESCIB 英語演習Ⅲ ワークシート⑥
学科 (M) 番号 (31) 名前 ()

オンラインディベート 反駁ワークシート

反駁アウトラインシートを使って、相手側にどう反論してどう主張をまとめていくのか考えましたね。ここでは、自分が担当することになった発表について英語にしています。発表は全員がしますので、最後まで責任をもって活動しましょう。自分の発表部分について左側には日本語で、右側には英語で書き込んでください。英語を作る際、1回目の授業で伝えたように、Google 翻訳に頼りすぎるのは禁止です。下の表現集を必ず参考にしてください。

Affirmative Rebuttal Speech (肯定側反駁)	
Your Theme: 機械製造を環境のために減らしていき、たとえ部分的な需要であれ手作りは廃止すべきではない。	
日本語	English
最初に、あなたの主張は、ハンドメイドの値段が高いから需要が少ないということですよね？まさにその通りです。私見ですが、部分的な需要にも注目すべきだと思います。 また、ハンドメイドは大量生産が難しいとおっしゃってましたね。この2つのコメントから、手作りすることも必要だということがわかりますよね？部分的に需要があるから大量に作らなくてもいいし、大量に作れないものは値上げできます。そうすれば、高いお金を払っても買おう人が出てきて会社が成長していきます。私は、需要が減ったからといって、手作りを廃止にすべきだとは思いません。むしろ、個々のニーズに合わせて様々な製法を採ることが、人々の生活にとって大切なことだと思います。	As for the first argument, your argument is that handmade products are less in demand because they are more expensive, right? That's exactly right. In my opinion, we should also pay attention to the partial demand. In addition, you mentioned that it's difficult to mass produce hand-made products. From these two comments, we can see that it is also necessary for the company to manufacture by hand. Right? They don't have to make a lot of them because there's only a partial demand for them, and they can raise the price for the ones as they can't make in large quantities. That way, some people will buy it, even if they have to pay a lot of money. And the company grows. I don't think we should do away with handmade goods just because there is less demand for them. Rather, I think it's important for people's lives to keep a variety of manufacturing methods to suit their individual needs.

図 11 各自が作成した反駁シート

図 10 グループで話し合った反駁アウトラインシート

7 回目は反駁の構築と投稿である。学生は相手からの応答内容をグループに持ち帰り「反駁アウトラインシート」を使って左側に改めて相手側の立論と今回の応答を箇条書きでまとめていった。次に、右側にそれに対して自分たちがどう反論して主張していくのかについて、グループで会議をしながら書き込んでいった。ルールとして、これまでに出てこなかった新しい議論を展開しないこと、立論や質疑応答での議論を補強するために提示した証拠について、それらを言い換えたり、膨らませたりして反駁の議論を展開するよう指導した。反駁も全員で行うため、出来上がった議論について担当を決め、その部分について表現文例集を参考に英語で作成し、順番通りに各自対戦チャンネルに投稿した。

【8 回目】

一連の議論が終了したあと、本来はジャッジが説得力のある議論はどちらだったか判断するところであるが、こういった方法で5 学科共同によるオンラインディベートを実施したため、他者からのジャッジは難しいと判断した。したがって、これまでの議論を振り返り、自分たちの議論のほうの説得力があった、相手の方がきちんと証拠を提示し、納得できる反駁であったなど、自分たちで判断をする「セルフジャッジ」の形をとった。

3MESC B 英語学習Ⅲ ワークシート⑦ 班 (S-30) 学科 (S) 番号 (18) 名前 () オンラインディベート 議論まとめレポート オンラインディベートお疲れさまでした。本来は、最後にジャッジ (審判) 役の学生によってどちらの側が説得力のある議論であったか判断するのですが、今回は初めてのオンラインディベートだったので、自ら一連の議論を振り返ることでそれに代えることとします。以下の項目について、議論全体を振り返りながら日本語で埋めていってください。文章でも箇条書きでも構いません。これをまとめレポートとします。
① 自分たちの立論についてまとめなさい。 私たちはハンドメイド商品よりも機械製品のほうが良いと思う。 まず、ハンドメイド製品には以下の2つの理由により需要がありませんと思う。 1つ目、ハンドメイド商品は値段が高いため、裕福な人には需要があるかもしれないが貧しいには需要がないと思われる。2つ目、ハンドメイド商品には日用品がないため、高いお金を支払ってまで買う必要がない。次に、ハンドメイドは機械で作るよりも作業効率が悪いので、大量生産が容易でない。仮に大量生産ができたとしても、それはアクセサリなどの小さいものや、皮を薄くする様な複雑な工程を必要としないものである。 また、価格と信頼は比例するため、信頼性の高いハンドメイド商品は価格が高く、価格が低いハンドメイド商品は信頼性が低い場合が多い。価格が高いからと言って品質が良いとも限らないため、ハンドメイド商品は信頼性が低い。 以上のことより、ハンドメイド製品には3つの欠点がある。 機械製品には、2つの利点がある。 1つ目、人件費が安く、大量生産ができるため、安価で大量に販売できる。そのため、機械製品を販売する会社は、ハンドメイド商品を販売する会社にくらべて多くの利益を生み出す。その結果、会社が育つ。2つ目、品質に対して一定の信頼性がある。工場を持つことのできる大企業であれば、より専門的になり、いい商品を開発することができる。 多くの人のため、安くて品質のいい商品のほうが理想的である。 だから、多くの人が機械で作ったものを必要としている。
② 相手側の立論についてまとめなさい。 私たちは、機械製品よりもハンドメイド商品のほうが良いと思う。 ハンドメイドには個性差があり、お客さんに満足してもらえる。これには4つの理由がある。 1つ目、ハンドメイド商品の個性差を一種の魅力として楽しむことができ、その魅力を知っている人はハンドメイド商品を欲しがります。ハンドメイド商品は、大量生産ができないため多くの人が購入できない。これは、ハンドメイド商品は希少価値が高いことを意味している。多くの人は希少価値の高いものを大切にします。 2つ目、手作業は丁寧であるため、価格は高くなるが価格以上の丁寧な商品ができる。 3つ目、機械で作れない品質を出すことができます。また、ハンドメイドには職人の技があり、作っていくうちに技術が進化していく。さらに、ハンドメイドは、製作者が修正したいタイミングで修正することができます。 4つ目、多くの人は希少価値の高いものを望んでおり、これは価値の高いものが魅力的であることを意味する。ハンドメイドは機械より作成に時間がかかるため価値がある。
③ 相手側に何と質問して、どういった回答が返ってきましたか。＊自分の担当だけでなく議論全体

物を買うときは、機能性や安さを求めるだけでなく、楽しさを求める人もいます。機械製品もいろいろけど、ハンドメイド商品も面白そうである。ハンドメイド商品にはまったく需要がないということなのか。説明を求めます。 回答 ハンドメイド商品にまったく需要がないと言っているわけではない。 しかし、生活必需品が少ないハンドメイドは、機械製品よりも需要が少ないと思われる。 あなたの周りにはハンドメイド商品を数えてみてほしい。ハンドメイド商品を楽しみを求めて購入するのであれば、そこにはあるはずである。 楽しみのために購入するものの多くは機械製品ではないか。そうなのであれば、ハンドメイド商品の需要はそこまでないと言える。
質問 2 「複雑な工程を必要としない、アクセサリのような小さなもの」と言ったが、ハンドメイドのアクセサリには需要があると思う。そこに何か問題でもあるのか。 また、「leather skiving」という言葉について詳しく説明してほしい。 回答 まず、私はアクセサリの大量生産ができることに問題があるとは言っていない。ただ、アクセサリ等以外の、バッグ大きな家具等はハンドメイドだと大量生産することができないと言っているまでである。 次に、「leather skiving」について説明する。これは、皮を薄くする作業のことである。
質問 3 ハンドメイド商品は、丁寧に作られているから、間違えに気づきやすく機械よりも品質が良い。 品質と価格が比例しないという根拠は何なのか。 回答 ハンドメイドよりも機械のほうが作業が正確でミスが生じにくいから、ハンドメイドのほうが品質が高いとは一概には言えない。また、ブランド品が高い理由がブランド料であるというように、ハンドメイドであるという理由だけで高価なこともある。
質問 4 機械を使って製造している会社は、最初に大量の機械を買う必要があるため、ハンドメイドと利益はそんなに変わらないと思うけど、あなたはどうか。 回答 確かに機械は高すぎる。しかし、大量生産の場合、機械産業の会社の利益が、ハンドメイド会社の利益よりも高くなる理由が2つある。 1つ目、雇用は機械よりもコストがかかる。人は長時間働くことができないため、品質が安定せず、福祉が必要である。したがって、製品の価格が上がり売値が上がる。 2つ目、生産量が増加するほど、コストは下がる。大量の原材料を購入することで費用を抑えることができる。また、生産量が増えると、固定費が分散し、製品の価格が下がる。その結果、売値は増加する。 以上の理由から、機械産業の会社の利益は、ハンドメイド会社の利益よりも高くなると思う。
⑤ 自分たちの反駁についてまとめなさい。 「ハンドメイド商品が機械製品かという2つの指標に基づいて個性差があるかどうかを判断するのは困難で

ある。」と言ったが、手作りが重宝するのには限定的な場面ではない。機械の利点は、正確な製品を大量に供給することである。だから、機械製品はハンドメイド製品より人の役に立つ。 ハンドメイドには本当に希少価値はあるのだろうか。 私の考えでは、希少価値は共有より需要はるかに多い場合につく。需要のないものに希少価値はない。 2 回目の議論で「価格以上の丁寧な商品が作れる」と言ったが、ハンドメイド商品には様々な市場価格があり、価格は生産者によって決定される。その結果、製品の価格が大幅に上昇する可能性がある。そう考えると、技術に優れた製品を安価に製造できる機械製品のほうが優れていると言える。また、技術に見合った価格の物を、安く大量に生産できる機械生産のほうが、技術に見合った製品を、時間をかけて1点しか作れないハンドメイドよりも優れているのではないと思う。 議論の中で「作業中に作り手を上達させることができ」と言ったが、所詮は機械より劣った技術が上達するだけで、機械を超えることはあまりないように思われる。ここでいう技術とは、正確性や効率品質の維持等を言う。また、機械も科学技術の進歩により正確性や効率化が進み、技術が上がることもある。これもいわれる上達というのではないか。
⑥ 相手側の反駁についてまとめなさい。 1 回目の議論で「ハンドメイドのほうが価格が高いため需要が少ない」という意見があった。 確かにその通りだが、一部のニーズにも応えるべきだと思う。また「ハンドメイド商品は大量生産が難しい」という意見もあった。以上の2点から、ハンドメイド会社も必要だということがわかる。需要が一部でしかないのなら、大量に作る必要はないし、大量には作れないため、値段を引き上げることもできる。 そうすると、お金をたくさん払ってでも買う人もいます。需要が少ないからと言って、ハンドメイド商品を廃止すべきではない。むしろ、個人のニーズに合わせて様々な製法を持ち続けることが、人々の生活にとって大切なことだと思う。 「個性差はメリットである」と言ったが、購入者の許容範囲内であれば問題ない。許容範囲内であれば、その差はその商品の味となり、メリットとなる。大切なのは、購入者にとっての面白さである。 3 回目の議論で「ハンドメイド商品の価格は品質に比例しない」と言ったが、この内容は議論と全く関係がない。なぜなら、お客がハンドメイド商品をどう認識しているかによって変わってくるからである。 最後の議論で「ハンドメイド商品は利益を見込めない」と言ったが、重要なのは利益ではなくお客を喜ばせることである。 「手作りでも機械でも進化すると」と言ったが、機械の進化は手作りよりもずっと速く、高価である。 その点を見ると、ハンドメイドのほうが効率よく進化できると思う。
⑦ このオンラインディベートについての自分の準備は十分でしたか。 自分の議論には説得力がありましたか。また、相手の議論には説得力がありましたか オンラインディベートにおいて自分の準備は十分だったように感じる。 自分の議論は、証拠を示していないところはただ自論を述べているだけだから説得力があるかはよくわからない。 相手の議論に対しては、1 回の議論で複数人が価値が高い、希少価値があるのと同じようなことを述べているように感じた。反駁では、需要が少なく、大量生産が容易ではないに対する反論が少しずれているように感じた。大量生産ができず、価格が高くなるため需要が少なくだけあって、同じデザインのものを大量生産し、安価で販売すれば需要が上がる商品もあると思う。だから、需要がないなら大量生産しなくてもいいというわけではない。商売において、お客を喜ばせることが第一というのはきいてごに過ぎないと思う。

図 12 ある学生の議論まとめレポートの一部

この議論まとめレポートを使って、①自分たちの立論、②相手側の立論、③相手側に何と質問して、どういった回答が返ってきたのか、④相手側からなんと質問されて、どういった回答をしたのか、⑤自分たちの反駁、⑥相手側の反駁、⑦このオンラインディベートについて、自分の議論には説得力があったか、また、相手の議論には説得力があったか、の7点をもとに各自まとめさせた。この学生は⑦において、自分の議論が一部証拠不足と感じたこと、相手の主張の単調さ、質疑応答からの反駁で、相手の反論が自分たちの主張と少しずれを感じたことなどが述べられていた。その上で、自分たちの議論のトピックセンテンスから重要な点を改めて述べており、他のメンバーが提示した証拠などからも自分たちの議論のほうが説得力があったと感じていることが分かった。一方で、自分たちの準備不足や相手の議論にデータが多く含まれていてわかりやすかった、自分たち

の質疑にきちんと答えられていて反論が難しかったなど、相手の議論のほうの説得力があったとするレポートも見られた。

3. 考察

3.1. 目的の達成

2.1 でも述べたように、本研究授業の目的は以下の7点であった。

- ① 英語による基本的なライティング能力の育成
- ② 議論に必要な英語表現の育成
- ③ 思考力の育成
- ④ 主体的に考える力の育成
- ⑤ チームワーク力の育成
- ⑥ 情報検索能力の育成
- ⑦ コミュニケーション能力の育成

順に考察していく。①英語による基本的なライティング能力の育成については、一部達成できたと思われる。次ページにある英語表現文例集をワークシートにつけていたが、222人中178人が文例集の一部を使って英作文をしていた。作文全体において学生の翻訳アプリ使用を制限することは難しいので、使う際は必ず主語と述語をはっきりさせて日本語の入力をするよう伝え、作られた英文が自分の伝えたいことを正しく伝えられているか、再度検討することも併せて注意喚起した。また、相手にわかりやすい議論を展開するため、1文はできるだけ短い英文で示し、簡単な語彙や文法を使うことも伝えた。5学科全58チーム中、少なくともメンバー1名以上がこういったルールを理解していた、もしくはできるだけ翻訳アプリを使用せず英作文を作成したと思われるメンバーが含まれていたのは、41チームで見られた。このチームに含まれるメンバーの英文は短く端的なものが多く、表現文例集を多用しているケースが多かった。その一方で、英作文自体が分かりにくいものやミステイクが多々あるものもみられた。一人ひとり英文添削をすることもひとつの方法ではあるが、本人の努力を削がないよう、訂正のコメントはオンラインで「主語が分かりにくいので、その部分を明確にしてみても、一般動詞でつないでみてはどうか」といった必要最小限のコメントに抑えた。

②議論に必要な英語力の育成については、次ページにあるようなディベートやプレゼンテーションなどでよくみられる英語表現文例集を提示することで、学生が英作文の際にこれらを取り入れやすくなったと思われる。上述したように、およそ80%の学生がこの中の一部の表現を使用していた。

<表現文例集>

まず初めに必ず挨拶をしましょう。

Hello, I am ○○○. We talk about “（テーマ）.” We agree with this point, because

◇自分の意見を言う(基礎編)

I think ~. (I think he must be a good guy. 「彼はいい人に違いないと思う」)

「～だと思います」

I guess ~. (I guess we have no class this afternoon. 「午後の授業は休講だと思うよ」)

「～じゃないかな」

I suppose ~. (I suppose they've already left. 「みんなもう出発したはずだよ」)

「～のはずだよ」

◇自分の意見を言う(応用編)

For me, 主語+動詞 ~. 「私にとっては、…」

In my opinion, 主語+動詞 ~. 「個人的な意見としては、…」

I personally believe that 主語+動詞 ~. 「個人的に～だと思っただけど」

From my point of view, 主語+動詞 ~. 「私の観点で言うと、…」

It makes me think 主語+動詞 ~. 「だから～だと思うんだ」

(It makes me think Tom isn't a researcher. 「だからトムは研究者じゃないと思うんだ」)

For some reason, 主語+動詞 ~. 「なんとなく、…」

(For some reason, I don't think he is telling the truth. 「なんとなく彼は本当のことを言っていないと思えるのです」)

It depends. 「時と場合によります」

I'm not sure. 「わかりかねます」

I can't say for sure. 「はっきりとは言えません」

◇ポイントを強調する(基礎編)

My point is 主語+動詞 ~. 「私の論点は～です」

The important thing is 主語+動詞 ~. 「大切なのは～ということです」

What I'm saying is 主語+動詞 ~. 「～だと言っているのです」

The problem is 主語+動詞 ~. 「問題なのは～です」

◇具体例や実例を導入する

For example. 「例えば」

Actually / In fact. 「実際には」

The fact is ~. 「事実です」

Let me give you an example. 「例を挙げると」

◇他の人の意見や調査結果を引用する

According to ~. 「～によると」

Citing data from ~. 「～のデータを参考にすると」

Generally speaking. / In general. 「一般的に言えば」

It is said that ~. / They say that ~. 「～だと言われています」

図 13 学生に提示した立論や反駁の際に使用しやすい英語の表現文例集

また、2 回目の講義と質疑応答のワークシートでは確認や明確化、説明を求めるといった質問例を提示し、質問項目を作りやすいよう配慮した。結果、およそ 90% 以上の学生がこの右図にある文例集のいずれかを使って相手に質問をしていた。

<表現文例集>

◇確認を求める質問例

How many reasons did you present? 「あなたはいくつの理由を説明しましたか?」

Did you say "..."? 「あなたは「・・・」といましたよね?」

As for the (first, second, third, fourth) argument, you said "...," right?

「あなたは（最初、2 番目、3 番目、4 番目）の議論について○○○といましたよね?」

Do you mean to say "..."? 「本当に○○○だと言っているのですか?」

You didn't read any evidence for the (first, second...) argument, correct?

「あなたは（1 番目、2 番目）の議論の中で何らかの証拠を読んでいませんよね、あっていますか?」

What is the source for that information? 「この情報についての情報源は何ですか?」

◇説明を求める質問の例

You used the word "...". What does it mean? 「あなたは○○○という言葉を使っていますが、どういう意味ですか?」

Could you define "..."? 「○○○について明確にしてくださいませんか?」

Could you elaborate on "..."? 「○○○について詳しく説明していただけますか?」

Could you be more specific about "..."? 「○○○についてもっと明確にしてくださいませんか?」

Could you explain "..."? 「○○○についてもっと詳細に説明していただけますか?」

You quoted from ○○○. Who is he/she? Is he/she an expert? 「あなたは○○○さんから引用しています。その人は誰ですか? 専門家ですか?」

Could you give us an example about "..."? 「○○○について私たちに例を挙げてもらえませんか?」

図 14 質疑の際に使いやすい英語の表現文例集

③思考力の育成であるが、これについては概ねほとんどのチームでテーマに対して思考力を発揮することができたのではないかと考えられる。2018 年の 7 月に告示された高等学校学習指導要領は 2016 年の中央教育審議会答申について以下のように触れている。

（中略）思考・判断・表現の過程として「精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程」（p. 14）

このように、思考力の過程についての言及が見られる。これに沿って考えていくと、個人の作業である①ブレインストーミング、②アウトラインシート、③立論ワークシート、④質疑ワークシート、⑤応答ワークシート、⑥反駁ワークシート、⑦議論まとめレポートという 7 点のワークシート

の作成過程で「精査した情報を基に自分の考えを形成し」の部分に網羅している。また、グループ活動として個人の作業で使った①から⑦のシートをそれぞれの回で持ち寄り、グループとして全体の立論、質疑応答、反駁をまとめるためにグループワークシートの作成を課している。さらに相手の議論をまとめる A) 相手側立論内容まとめシート、B) 相手側質疑内容まとめシート、C) 反駁アウトラインシートなども作成させたため、グループ会議において「互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したり」の部分も活動内で発揮されていると思われる。

④主体的に考える力の育成については、一部しか達成できなかったと考えている。チームによっては議論が偏り、全員の立論において同じような話が繰り返されているチームも見られた。例えば森林伐採のテーマでは、「森林が失われる、生態系が崩れてしまう、地球温暖化を引き起こす」といったよく問題視されている内容に引っ張られてしまい、伐採の中にも森林を育てるために必要な伐採があることに目を向けられていないといったような活動が見られるチームもあった。

⑤チームワーク力の育成については、おおむね達成できたと考えている。3～4 人のチームにおいて、【リーダー、タイムキーパー、書記、情報管理】といった役割を決め、会議を開き、自分たちで時間を管理しながら活動を進めていった。立論も質疑応答も反駁も全員が参加しなければならない方式をとったので、誰一人が欠けても議論が成立しない。この授業では欠席がほとんど見られなかったのが印象的であった。みな、自分の役割を果たすためにしっかり授業を受け、メンバーとともに活動に取り組む様子が見られた。

⑥情報検索能力の育成については、④の主体的に考える力の育成で述べたように、自分の議論に都合の良い証拠を集めがちになることが多いグループもいくつかみられた。思い込みや世間で多く見られる情報に惑わされることなく、幅広く考えるために最初の活動として「ブレインストーミング」を課したが、柔軟に様々な意見に触れられる学生とそうではない学生が見られた。テーマ設定の仕方によっても意見が左右されやすくなるので、幅広く情報を検索できるよう、テーマの中にキーワードとなる表現を加えるといった仕掛けが重要である。

最後に⑦コミュニケーション能力の育成であるが、これについてはほぼ全員が毎回会議を開き、グループで話し合いながら議論の構築をしたので、おおむね達成できたのではないと思われる。話すのが苦手な学生もいるだろうが、担当する役割があったり、立論、質疑応答、反駁に全員参加することで、自分と他者の意見をすり合わせる作業が必要となったためである。

3.2. アンケート結果

授業後、学生は学内指定のオンラインアンケートに回答した。222 人が受講したが、有効回答数は 198 人であった。1. 今までの授業は満足できたかの質問に対し、68.2%の学生が「とても満足」「満足」を選択していた。2. 今までの授業内容は理解することができたかについては、76%の学生が「とても理解できた」「理解できた」と回答している。毎回の授業において、個人ワークとグループで会議をしながら行うワークが課せられ、学生の労力も大変なものであったと思うが、ひとつひとつ段階を踏んで仕上げていく作業にワークシートを多用した結果であると考えられる。また、3.

授業内容・量は適切であったかについては71.5%が、4. 課題の内容・量は適切であったかについては73.4%の学生が「とても適切だった」「適切だった」と回答している。5. 授業でもっとも満足している部分はどこであるかの質問に対しては、44.8%が「授業の内容や量」と回答し、次いで多かったのが36.7%の「質問への対応」であった。筆者は授業時間中は常にグループをモニターし、適宜学生の質問に答えたり、議論が滞っているチームに対しヒントを出すなどファシリテーションに徹した結果であると考えられる。6. 本授業に対し、学習に費やした時間を尋ねた質問では、90～120分以内と回答した学生が最も多かった。授業内でタスクを完成させる学生がいる一方で、推敲のために時間をかけたり、作成に時間がかかったりした学生もいたと考えられるが、活動目的達成のための学習時間は確保されていたと思われる。最後に「8. 授業への要望や意見がある場合はこちらに記入してください」という自由記述の欄があったが、12名しか記入しておらず、「なし」「特になし」が10名、「授業内では終わらない内容だった」が1名、「日本語でのディベートもままならないと思うのに、英語でやると大変だった」が1名であった。この授業は授業外の事前事後課題として30時間割り当てられているため、「授業内では終わらない内容だった」については授業外でも時間を使ってディベートの準備をしたことがうかがえる。また、「日本語でのディベートもままならないと思う」という意見については以下のように考えられる。近年の学生を見ていると一方向のプレゼンテーションはずいぶんと上手になってきているように思う。小学校や中学校でも調べもの学習やポスター作製などが行われており、その成果であると考えられる。しかし、質疑応答は学生にとって難しいようである。ディベートもまた自分の議論を構築しながら相手を説得し、さらに相手の議論の弱いところを見つけ出すといった非常に高次のレベルの言語活動であるため、学生にとっては日本語でも英語でも困難である様子がうかがえる。今後は海外の人々とディスカッションすることも増えていくと思われるため、国語や日本語、歴史や現代社会、英語といった科目間連携をしながら、学生の真のコミュニケーション能力を育成することが今後の課題であろう。

4. 結論

新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンライン授業が取り入れられる中、教育の質を担保することは教員にとっても非常に労力のいることである。しかしながら、ワークシートに手順や文例集を載せたり、段階を踏んでタスクが仕上がるようワークの順番を指定したりするなど、仕掛けを十分にすることで、オンラインであっても学生の学習を担保することは可能であると思われる。一方で、作業中の様子が見えないことから、ワークシートなど成果物の判断は難しくなりがちであるが、議論が整然とまとめられていたり、英語については文例集を使っている、簡潔にわかりやすく書かれてあるなどの様子が見られていたら、学習の質は一定程度に保たれていると考えても良いのではないだろうか。

課題もいくつか見えてきた。英作文をする際に、学生が翻訳アプリを使うことを止めることはなかなか困難である。こういった活動をする前に、本授業や別の授業との連携などで、サンプルを参考に文を多く書かせるタスクを取り入れると効果的であると考えられる。また、テーマの設定次第では、学生の意見が偏りがちになることもある。課題に対して一般的に多い見解はインターネット

で検索しやすくなるが、そういった情報に全員の意見が集中し、主体的に別の視点を探すといったことが難しくなるケースもある。「必ず両方の意見があるはずなので、それに目を向ける」よう指導しながらも、一部のチームをそのように導けなかったことは今後の課題であると言えよう。同時に、テーマにキーワードを含めるなど細かく設定することも、多様な意見を導き出すために重要な点であることが分かった。

本授業は7つの目的のもと実施されたが、おおむね達成されたと考えている。多くの学生がグループ会議や相手とのオンラインディベート対戦を通じて、コミュニケーション能力の一端を養うトレーニングになったのではないだろうか。今後は、学生のライティング力とスピーキング力が、真に伸びているかを測るテストを加えることも検討していきたい。

5. さいごに

「知的ゲーム」ともいわれるディベートであるが、日本語でも大変な作業になっていくため、それを英語でやることは、学生にとって最も難易度の高い活動といっても過言ではないであろう。しかしながら、ある課題に対し議論を構築し、相手を説得するという作業は、言語力のみならず、さまざまな技能を試すことのできる活動である。低学年では通常の授業に加えプレゼンテーションを、高学年の授業ではこういったディベート活動に移行していくように、言語活動の幅を広げていくことも重要であると思われる。

授業の準備から実施まで、非常に多くの時間を割いて構築した研究授業であった。対面授業の際の机間巡視とは違い、オンライン上でモニターするのは見えない部分もあり、筆者にとっても労力のいる作業であった。しかしながら、こういった授業手法は、仕掛けを多く設定することにより、対面であってもオンライン上であってもおおむね学習の質を担保できる有意義な方法であると考えている。したがって、今後もブラッシュアップしながら続けていくつもりである。

参考文献

- 岡田美鈴 (2019). 「英語ライティング及びスピーキング活動を通した言語運用能力とジェネリックスキルの向上」『九州大学基幹教育紀要』(5), 110-119.
- 国立高等専門学校機構 (2017) 『モデルコアカリキュラムーガイドラインー (経済・ビジネス系を除く)』.
- 白畑知彦 (2021). 『英語教師がおさえておきたい言葉の基礎的知識』. 大修館書店, 東京.
- 文部科学省中央教育審議会 (2008). 『学士課程教育の構築に向けて (答申)』.
- 文部科学省 (2018). 『高等学校学習指導要領 (外国語編)』.